日本聖公会 神戸教区報
神のおとずれ
2019年
３月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
http://www.nskk-kobe.org/

発行責任者
司祭　小南　晃

印刷所
文明堂印刷所

すべてをわかってくださる神様

司祭　マルコ　平野　一郎

何かを抱えて生きている

一見、楽しく、幸せそうな人生を生きていて、悩みや苦しみがないような人を見ることがあります。しかし、そのように見えても現実は病気を患っていたり、家族に問題を抱えていたり、また職場での人間関係がすさんでいて、「実はあんまり幸せではない」ということもよく聞きます。

吉本興業の名物マネージャーで、現在、「笑い」や「元気」などをテーマに年間３００回のセミナー・講演を行う大谷由里子さんも人から、「大谷さん、いつも明るくていいね」、「悩みなんてないよね」、「そんなにプラス思考で生きたいわ」と言われることがあるそうです。

しかし彼女は、そんなに人生が何もかもうまくいっているわけではなく、借金や離婚、親の事故に祖父母の介護など、たいていの苦労は経験したと語っています。

このようにみると、どんなに楽しそうに見える人でも、みんな何かを抱えて生きているということが言えるのではないでしょうか。

誰にだって

相田みつをさんの「だれにだって」という詩があります。

「だれにだってあるんだよ
ひとにはいえないくるしみが
だれにだってあるんだよ
ひとにはいえないかなしみが
ただだまっているだけなんだよ
いえばぐちになるから」

このように誰もが人に言えない苦しみ、悲しみを抱えながらも、黙って過ごしていると言えるでしょう。

苦しい時ほど神様は見てる

絵本作家で牧師の息子である、のぶみという男性は『かみさま試験の法則』という本の中で**「気を使っているのに、人にキラわれたり、がんばってるのに、評価されなかったり、絶対自分が悪くないのに、キライな人がなんか言ってきたり、もうなんでこんなことに、なるんだよってことばかり、でもそれが、かみさまのプレゼントだとしたら…？苦しい時ほど、かみさまは、見てる、あなたがどう成長するかを、かみさまは、見てる」**と書いています。

また、**「かみさまは、見てる、人からイヤなことを言われても、まだ人を喜ばせようとしている人を見てる。落ち込む心をちょっとでも上にあげようと笑顔にしようとする人を見てる、自分を数に入れるのを忘れるくらい人を喜ばせようとしている人を見てる。かみさまは、見てる。かみさまは、見てる。かみさまは、見てる。あなたがどんなにやさしいのかを知っている」**という詩も書いています。

すべてわかっている

チソンさんというクリスチャン女性は大学生の時に交通事故に遭いますが、奇跡的に一命を取り留めました。しかし、８本の指を切断し、全身の55％に大火傷を負うことになりました。さらに幾度もの手術をして、激しい痛みと治療に悩まされる日々を過ごし、絶望の状況にいました。彼女は、痛みの激しい日、あまりにも悲しく、苦しかったので、「イエス様の痛みもこれに比べれば何でもないはずよ」と泣き叫びました。

その時にイエス様は、彼女の涙を拭いてくださり声無き声で、「すべてわかっている」と彼女におっしゃられ、彼女が経験した肉が引き裂かれる痛み、恐怖、嘆きが口に出てくるしかないその心情、背に負った十字架の重荷のすべてがわかると語りかけてくださったそうです。

そこでチソンさんは大いに慰められ、希望を持つことになりました。

主はすべてを見て、知っておられる

聖書において神様は**「どこにも主の目は注がれ、善人をも悪人をも見ておられる」**（箴言15：３）、口語訳では**「主の目はどこにでもあって、悪人と善人とを見張っている」**と記されています。また、**「主は天から目を注ぎ、人の子らを残らずご覧になる」**（詩篇33：13）とも言われています。

私たちは、たとえ人が見ていなくて、気づいていないとしても、神様だけは私たちの苦しみや私たちの心の全てを見ておられて知っておられることを覚えたいと思います。そして私たちは、そのように人に言えない苦しみ、悲しみ全てを受け止めてくださるイエス様のもとに行き、すべての心のうちを吐き出していきたいものです。

（福山諸聖徒教会牧師／倉敷聖クリストファー教会管理牧師）